

取り組み項目	具体的な手立てと成果	課題 →→→	→→→ 来年度に向けての改善策	職員自己評価		学校関係者委員会 評価・表現の妥当性、付帯意見
				平均	評価	
自ら学び続ける力を育てる ～未来を切り拓くために～						
授業やカリキュラムを工夫し、将来に向けて自主的・意欲的に学ぶ態度や課題解決能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ◎授業のめあてを書き、それに沿った解決を促していくことで1時間の学習に目的意識をもたせた。 ◎生活や国語の学習で身に付けた力を発揮して活用する時間を設けた。 ◎図工展のオープンスクールで、全校造形遊びを実施した。主体性や創造性、協働性が発揮されていた。 ◎夏休みの特別講座が本年度は充実しており、保護者にも大変好評だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●総合的な学習の時間の全体カリキュラムがなく、総合的な学習で身に付けたい力は何かと聞かれても即答できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ★今までの活動を整理し、つけたい力を明らかにした上で、総合的な学習の時間の全体カリキュラムを整備する。 	2.9	B	妥当である。 与えられるのを待つのではなく、自分から知を獲得しようとする、そんな子どもを育てるために、武庫庄小としてどう取り組むか、全体的な計画を創意工夫してほしい。 図工展のときの造形遊びや夏休みの特別講座は、保護者の間で好評だったし、他の学校にはない武庫庄小独自の取組みと聞いているので有り難い。
全ての領域で「ことばの力」を高める活動を充実させ、思考力・判断力・表現力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ◎ペア・グループ活動を通じた学習を今まで以上に意識して授業を行った。 ◎場や目的にあった表現方法を知り、使用できるよう意識づけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●話しっぱなし、聞きっぱなしではなく、子ども同士の言葉のキャッチボールができるようにしたい。 ●教室の授業と図書室との連携→もっと他の本を読みたい、もっと自分で調べたいと思うような授業にする 	<ul style="list-style-type: none"> ★ペアトーク、グループトークを積極的に取り入れたり、授業の在り方を工夫することで、アウトプットする機会を増やす。 ★授業の中で活用できるよう、図書館司書との更なる連携を図る。 	2.9	B	妥当である。 大人の会議でも、ペアトークやグループトークが広まっており、効果が認識されている。言葉に出して初めて自分で自分の考えに気がつくことがあるし、そもそも言葉に出さないと他人に考えは伝わらない。 ただ、このような授業では、本当に考えたい、話したいと思える課題を出すことが重要だと思われるので、先生の工夫や努力が求められるだろう。 また新聞や本を読んで、それに対する自分の考えを持つことも大切なので図書館活用に期待する。 授業の中で子ども同士が指名する場合、決まった子どもの間で回ることがないように配慮してほしい。
学力実態を分析し、学力向上に組織的に取り組む。特に、家庭との連携を強化し、自発的な学びの習慣化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ◎学級通信で授業の進度や学習の目的、間違いやすいところなど、家庭学習での参考にしてもらえるよう知らせた。 ◎宿題は、漢字・計算の反復練習だけでなく、単元に必要な思考を伴う課題や、家庭で実践できることをさせたり、自主学習を積極的に行うようにさせた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学びを習慣化するためにはどう家庭と連携するのか、その有効な方法がはっきりしないし、保護者にとっても大きな課題であることがアンケートからわかる。 ●高学年の算数のノートの例が学校通信で紹介されていたが、学年に応じた形で全校で取り組みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ★全校をあげて、自主学習を奨励していく。自分の好きな分野で自主学習ノートを活用していく(例:好きなことについて調べる、絵や物語をかく) 	2.6	B	妥当である。 自発的な学びの習慣化は大変難しいことだと思うが、意欲が出るような評価、張り切って取り組めるような手立てなど先生の創意工夫をお願いしたい。 また、自発性を大切にしつつも、適度な緊張感を持たせ、きちんと課題をやっているかチェックすることも、継続・習慣化のために必要ではないか。
豊かな心を育てる ～未来をよりよく生きるために～						
夢や自尊感情を持たせ、自己実現の意識を育むとともに、家庭や地域と連携しながら規範意識や自己指導能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ◎4年生総合の二分の一成人式で、これからの10年間を基本に考えたり、1、2年の生活科で自分の成長を見つめたりする学習で自尊感情を高めることができた。 ◎帰りの会で楽しかった事、がんばった事を話し合ったり、自己肯定感を高めるような声かけ、ノートの丸つけを行った。 ◎地域の方の協力でいろいろな体験ができてありがたかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●道徳の授業を通しての心の教育が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ★道徳授業の充実(時間、内容の見直し)や人権教育の見直しを図る。 	2.7	B	妥当である。 将来に夢や希望を持つのが難しい時代だが、それだけに、小学生の頃から広い意味でのキャリア教育を総合的な学習などでやってほしい。例えば、将来何になりたいかなど夢や目標を持たせ、その実現に向けてどのような道筋を辿るか、そして今何をすべきか考えさせる機会、職業体験できる機会を作ってやってほしい。
他者や自然とふれあう機会を増やし、命を尊ぶ心やより良い人間関係を築く力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ◎ピオトープづくりを通じて自然への関心を持たせることができた。まだ工事段階だが、楽しそうに作業をしており、今後はもっと興味が持つ児童が増えるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●あいさつができていない。(担任以外の先生にはしなかったり、朝会の表彰時に返事がなかったり、職員室に入るときも、そして職員間のあいさつも・・・)教師間で一貫した指導をすべき。 ●トイレの使い方の悪さや、廊下を走る子が多いなど問題があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ★職員全体がひとつになって、あいさつ等の指導に取り組む。 ★ただ、させるだけでなく、なぜそれが必要なのか教師もしっかり持っておき、子どもに伝える。(人間関係を良くするため、命を尊ぶ心を育てるため) ★ピオトープの手入れの仕組みづくりや、教科学習への活用を工夫する。 	2.7	B ↑ C	Cは低すぎるのでB評価に修正したい。 挨拶は各家庭での指導、親の姿勢も影響するので、学校の取り組みだけで改善は難しい。またピオトープなど自然とふれあう取り組みができていたのでC評価は低すぎる。 B評価が妥当である。 ただ、まずは学校の中だけでも徹底することは必要なので、挨拶について意思統一した上でみんなで取り組んでほしい。一方、学校の外では知らない人に声をかけられたら警戒するよう子どもは教えられているので、地域での声かけや挨拶は躊躇する場面もある。
健やかな体を育てる ～未来をたくましく生き抜くために～						
家庭や地域と積極的に連携して食育をより充実させ、健康な体づくりにつながる望ましい生活習慣を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ◎食育、総合は、地域の方や栄養教諭にサポートしてもらったり、教えていただいたりしながら大変充実してものごとができた。 ◎家庭科、総合で家庭を巻き込みつつ授業を行った。 ◎各学年でそれぞれ、体験活動を取り入れた食育が実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の方や栄養教諭の力に頼りすぎではないだろうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ★過去何年分の取組みを整理し、積み上げていけるようにする。各学年ごとの食育カリキュラムを整備し、共有する。 	3.0	A	妥当である。 自分達が子どもの頃は、このような豊かな経験を学校ですることがなかったのので、今の武庫庄の子どもがうらやましい。地域の方にも恵まれていて有り難い。武庫庄の地域と学校が誇れる取組みとして今後も続けてほしい。
自らの身体や健康について関心を持たせたり、計画的な体育・スポーツ活動を通じて運動する楽しさや喜びを味わわせたりすることにより、体力の向上や健康の増進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ◎体育委員会の取組みで、外に出て身体を動かす意識がついてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●体育のカリキュラムの再検討(内容を明確にし、系統性も考える。) ●体力がない。少し苦しくなるとやめてしまう。運動が苦手だから見学する児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★取り組んだことを資料として残し、いつでも見られるようにする。 ★外遊びをするように、職員がもっと積極的に働きかけをする。 ★冬は縄跳びかマラソンか、朝の健康管理を考慮しながら検討する。 	2.9	B	妥当である。 しんどいけども頑張ろうとする気持ちを育てるためにもマラソンは有効ではないか。 下校後も運動できる環境があればいいのだが。
信頼され魅力ある学校をつくる ～未来に向けた地域協働のために～						
保護者・地域・関係機関とともに学校の防災・防犯体制を強化し、安全安心な学校づくりを行うとともに、子どもにも危険予測能力や危機回避能力を身につけさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ◎オープンスクールでネットの危険性や対策についての親子講習会はよかった。本校児童の実情にも合っていた。ネットについて講習後気をつけようとしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教員ももっとネット対策の知識をつけていくべき。講演会に保護者の出席が少なかったのが残念。他の教科の参観を止めてでも聞いてもらいたい内容だった。子どものネット環境やDSの与え方を見ても家庭への啓発がもっと必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ★スマホやネットへの対策講習会を毎年続けて行く。保護者ももっと参加するよう工夫していく。 ★引き渡しカードを年度始めに作る。 	2.9	B	妥当である。 スマホ、ネットの講習の効果は子ども達に浸透している。家に帰ってから「お母さん知ってる？」と話題にするなど良い意識づけになってよかった。従って、次の年からは保護者の参加も増えると思うので、ぜひ、毎年実施してほしい。
積極的に情報を発信して保護者や地域とのつながりを深めるとともに、学校評価を活用してPDCAサイクルに基づいた改善と結果公表を行い、魅力ある学校づくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ◎3学期のオープンスクールは今までより充実していた。またオープンスクールの案内、授業一覧など保護者にも親切になったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●スマホ・ネット講習会の講師からネット上の顔検索の危険性を指摘されたこともあり、学校行事における保護者のビデオ、写真撮影について、全体で共通理解をしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ★教育の幅を広げるために地域からボランティアをしてくださる方を募る。 ★オープンスクールの土曜日開催も検討する。 ★ビデオ、写真撮影のガイドラインを作成して保護者に周知する。 	2.8	B	妥当である。 ボランティアについては、スポーツやダンスなど体を動かす系の活動でも地域の人材が期待できそうである。
教職員一人一人がプロとしての力量を高めながら、共に高まり合う研修も行う「学び続ける組織」であることにより、保護者や地域から信頼され共に伸びる学校を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ◎数々の講師の先生の招聘など研究教科以外の研修の場があるので幅が広がって良かった。 ◎生徒指導上の問題を担任で抱え込まず、常に学年で共有し、複数で指導にあたったり対応を考えたりした。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自主公開授業が、今年ほとんどできていない。学年の枠を取り払った交流の機会を作りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ★自主公開授業の通知板をつくったり、ときには机の配置を変えたりするなど、学年の枠を取り払った交流の機会を作る。 	2.7	B	妥当である。